

風景と感情の結びつきに関する一考察 ～現代日本の流行歌を分析対象として～

鍵村 香澄¹・尾崎 信²・中井 祐³

¹ 非会員 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 (〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1,
E-mail:kagimura@keikan.t.u-tokyo.ac.jp)

² 正会員 工修 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 (〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1,
E-mail:osaki@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

³ 正会員 工博 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 (〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1,
E-mail:yu@civil.t.u-tokyo.ac.jp)

本研究では、ある特定の感情と結びつけられやすい風景が存在するかどうか、という問いに関する知見を得るために、現代の日本の流行歌を対象に、歌詞に含まれる風景記述と感情記述、および楽曲の有する感情的性格について、それらの関連性を分析した。その結果、現代の日本の流行歌では、街や都会の描写が、傷つく哀しみと傷ついた相手を守りたい愛情とともに描かれる傾向があることなど、風景と感情の結びつきについて、4 つの特徴的な組合せを見つけた。また、既往研究成果を参照しつつサウンドの有する感情的性格との関連性を探したが、一部例外を除き、明確な傾向を見いだすことはできなかった。

キーワード: 風景, 感情, 流行歌, 歌詞, サウンド

1. はじめに

(1) 背景と目的

「景観」という語が「人間をとりまく環境のながめ」¹を表すのに対して、「風景」という語は「暗黙に人間の内的（主観的）システムから還元される何ものかを含んで」²いとされる。つまり「風景」には人間の感情が投影されることがあり、古来より詩や歌においてそれが表現手法として用いられてきたことはよく知られている。本研究のきっかけとなる問いは、ある特定の感情と結びつけられやすい風景、すなわち感情と風景の結びつきの「型」は存在するのであるか、というものである。これまで、人間が知覚する風景に関わる研究では、主に景観イメージの構造の把握に焦点があてられ、人間の感情と風景の関わりに関する知見はほとんど得られていない。そこで、本研究では、現代日本における感情と風景の結びつきの型に関する知見を得ることを目的とする。

(2) 対象

本研究は、現代の日本の流行歌を対象とする。理由は大きく二点ある。まず、歌には、歌詞中に風景描写と感情描写の双方が含まれることが多くあるため、感情と風景の結びつきを観察するに適した対象であると考えられる点である。また、その歌詞が現代日本語であり誤解なく解釈・分析しやすいという点、さらに大衆性を得てい

るという観点から、現代日本の流行歌を対象とする。

なお、歌詞だけでなくサウンドも歌を構成する重要な要素である。ニューミュージックの登場以降、それ以前の歌詞のメッセージ性重視の曲からサウンドの表現を重視した曲へ流行歌の傾向が移り変わっていった（小川, 1988）³ことから、歌われる風景とサウンドによる感情的な表現の関連も取り扱うべきであり、サウンドの持つ感情的性格も本研究では考慮の対象とする。

(3) 既往研究

景観の分野において行われてきた言説・テキストを対象とした研究は、文学作品を扱った尾野ら(2011)⁴や、歌の歌詞を扱った島兒ら(1994)⁵、鈴木(1998)⁶などがあるが、これらの研究では人間が抱く景観イメージの構造に焦点があてられ、感情との関わりという視点で景観・風景を扱うものではない。毛利ら(1994)⁷は感情的な表現も考慮しているが、海のイメージタイプのみを対象としている。

社会学の分野では見田(1967)⁸や小野澤(2013)⁹など、流行歌の歌詞中の語句の出現傾向を分析して日本人の心のあり方を明らかにする試みが行われてきている。しかし、それは風景論の文脈ではなく、本研究において一定の参考となるものの、目的および成果が大きく異なる。

2. 手法

(1) 対象曲の選定

分析対象とする現代日本の流行歌を選定する際、本研究では、1968 年から、一貫した評価基準（調査協力店における売上）で受賞作品を選定しているとされる「オリコン年間ランキング」（2003 年以前は「日本レコードセールス大賞」）¹⁰⁾の 1968 年から 2012 年のシングルセールス部門の楽曲¹¹⁾に着目した。各年上位 5 位の楽曲のうち、風景に投影した感情が楽曲の主題となっていないコミックソングなどを除外した 169 曲を対象曲とする。なお、対象曲における年代別の曲数は以下の通りである。

表-1 対象曲の年代別曲数

1968-69 年	1970 年代	1980 年代	1990 年代	2000 年代	2010-12 年
7	27	36	43	45	11

(2) 対象曲からのデータ抽出

次に、各曲の歌詞¹²⁾に含まれる風景および感情に関する記述を抽出し、またサウンドの特徴について分類を行い、分析用のデータとする。

a) 歌詞中の風景記述 (P, S, T)

歌詞中の風景に関する記述は多様であるため、ここでは便宜的に風景記述を三つの要素に分解して整理をする。つまり、風景記述を、その“場所”と、“風”や“夕日”など風景の一要素となりうる“状況”と、季節・時刻などの“時間”の組み合わせとして捉え、次の手順でデータを抽出した。

①：歌詞から“場所”“状況”“時間”に関する記述を抽出する。

②：抽出した記述のうち、似通ったものを同一カテゴリに分け、それぞれ「場所要素 P」「状況要素 S」「時間要素 T」とする（以下、P, S, T と表記）。

表-2 風景を構成する 3 要素

P 場所要素		S 状況要素		T 時間要素	
1	なし	1	風	1	なし
2	街・都会	2	雨	2	夜
3	海	3	空	3	夕
4	道	4	なし	4	夏
5	家・部屋・窓	5	太陽	5	冬
6	北国	6	夕日	6	春
7	川	7	星	7	昼
8	駅・鉄道	8	波	8	朝
9	その他	9	月	9	秋
		10	雪		
		11	樹木		
		12	雲		
		13	寒さ		
		14	虹		
		15	人波・人混み		
		16	暗闇		
		17	その他		

※1 項目「なし」は、それぞれ場所、状況、時間の記述がないことを指す

※2 項目「太陽」は、日差し、晴れなど、「朝日」や「夕日」とは性質を異にする太陽の描写を指す

※3 記述はあるが、出現回数が 4 曲以下の項目はすべて「その他」にまとめた

b) 歌詞中の感情記述 (E)

次に、歌詞中の感情に関する語を抽出・分類した。

①：歌詞から感情に関する語を抽出する。

②：中村明(1993)『感情表現辞典』¹³⁾に基づき、①で抽出した語が属する感情のカテゴリを分類し、「感情要素 E」とする。（以下、E と表記）

表-3 感情要素（出典：中村明『感情表現辞典』）

感情	語句の例
喜	めでたい、うれしい、満足、楽しい、快、微笑
怒	立腹、憤る、癪、不機嫌、どなる
哀	悲しい、泣く、哀れ、淋しい、むなしい
怖	こわい、ふるえる、心細い
恥	恥ずかしい、晴れがましい、赤面
好	愛、恋しい、あこがれる、好き、なつかしい
厭	嫌、憎い、悔しい、困る、憂鬱、しょげる、苦しい
昂	あせる、いらいら、緊張、興奮、感動
安	ほっとする、平然、気楽
驚	びっくり、ショック、面くらう、呆然、意外

c) サウンドの感情的性格

サウンドの感情的性格、つまり“この曲は悲しい曲である”などと聴き手が楽曲に対して知覚する感情的な性格に関する研究としては、長調と短調、テンポの速度などの音楽的な特徴と、聴き手が知覚する感情的性格の関係を SD 法で測定する実験が Bruner (1990) ¹⁴⁾により行われており、表-4 のような傾向が確認されている。これを参考に、本研究では対象曲の調とテンポを調べた。

表-4 既往研究から判明している音楽の感情的性格と調・テンポの関係（出典：Bruner, 1990）

感情的性格	調	テンポ	感情的性格	調	テンポ
Serious 重々しい	Major	Slow	Happy 嬉しい	Major	Fast
Sad 悲しい	Minor	Slow	Exciting 興奮する	Major	Fast
Sentimental 感情的な	Minor	Slow	Majestic 威厳がある	Major	Medium
Serene 穏やかな	Major	Slow	Frightening 恐ろしい	Minor	Slow
Humorous 愉快な	Major	Fast			

(3) 分析・考察の流れ

本研究では以下の流れで分析・考察を行う。

①：P, S の各項目の組み合わせのうち、出現頻度の高い組合せを抽出する。

②：①で抽出した同じ P, S の組み合わせを持つ曲の E や調・テンポに一定の傾向があるか調べる。

③：②で、一定の傾向を示した P, S の組み合わせについて、歌詞の全体的な描写の傾向を確認、考察する。

①でどのような風景が現代日本の流行歌の歌詞でよく描かれるのかを把握した上で、②③では歌詞中の風景記述と感情記述や、それらとサウンドの感情的性格の関わりを分析することを意図している。

3. 分析と考察

(1) データの概観

a) 歌詞中の風景記述・感情記述の傾向

2. (2)a)および b)で抽出した風景記述 P, S, T および感情記述 E の各項目が出現する曲数を図-1 に示す。

場所要素 P および時間要素 T は、記述のないものが最も多く見られ、状況要素 S は顕著に多い項目は見られなかった。全体として、現代日本の流行歌は、特定の場所の風景を記述せず、風や雨などの自然現象を比喩的に用いる傾向が窺える。

感情要素 E は、好、哀、厭、喜が突出して多く、現代日本の流行歌に表現される感情に一定の傾向があることがわかる。

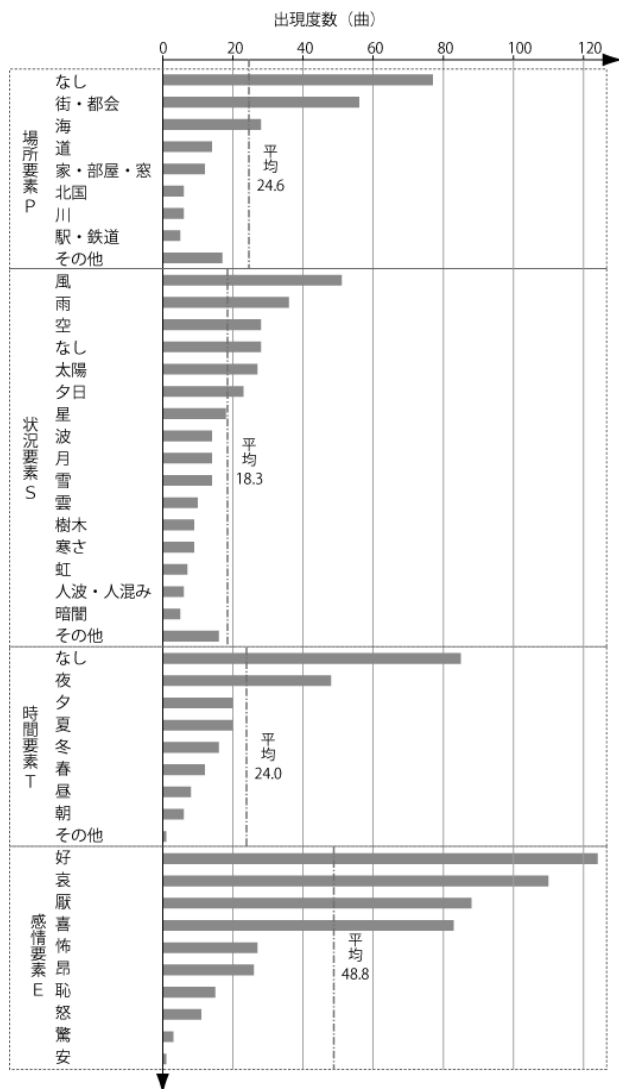


図-1 風景記述 P, S, T, 感情記述 E の各項目の出現曲数

b) サウンドの傾向

対象曲における調性と、テンポ（1 分間の拍数）の分布を図-2, 3 に示した。なお、2. (2)c)で示した既往研究成果を適用できる形にするため、テンポを遅、中、速に分類し、その曲数・割合を付記した。テンポの分類は、

一般的なメトロノームのメモリが Moderato（中位の速さ）=88~96, Allegretto（やや快速）=100~108 としていることを参考に、89 以下、110 以上をそれぞれ遅い、速いテンポ、その中間を中位のテンポとしている。

調性はやや長調が多いものの、顕著な傾向は見られない。テンポは速いものが過半数を占めている。

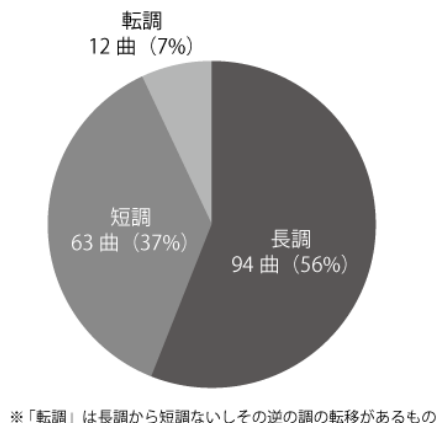


図-2 サウンドの調性

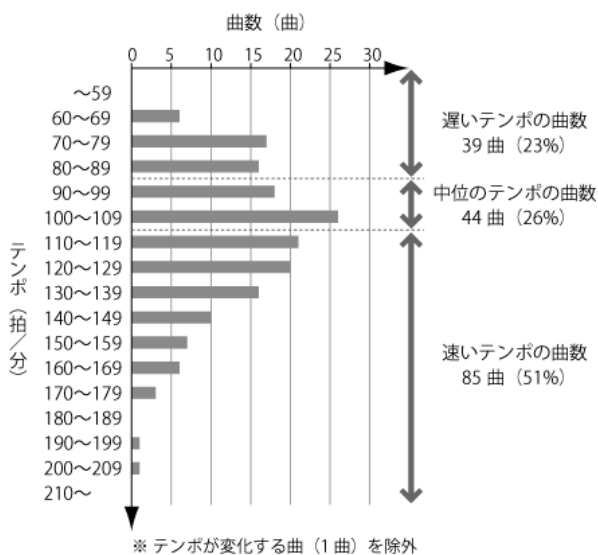


図-3 サウンドのテンポ

(2) 分析対象曲の抽出

a) P と S の頻出組合せ その 1 : S が単独のケース

風景記述を P, S, T に分解して取り扱う際、視覚表現ではない T はそれ自体では風景を表現し得ず、P, S に対する修飾的な性格を有するにとどまる。そのため、分析対象を抽出する際には、P と S の組合せとしてよく見られるもの（表-5）から選出することとする。一方で、風景記述を構成する要素として最も主要なものが P である。S のみの記述は自然現象等を比喩的に用いた表現にとどまることが多く、風景の表現とは言い難いものも見られる。それゆえに分析・考察の対象としては、P と S の頻出組合せのうち、場所の記述があるもの（P≠なし）とし、表-5 にゴシック体で示した。

b)PとSの頻出組合せ その2:Sが複合するケース

ひとつの風景記述に対して、基本的にPはひとつ対応する(平均出現個数 1.09)が、Sは複数の記述が複合的に対応することが多い(平均出現個数 1.56)。そのため、Sが複合して現れるケースも分析・考察の対象とする。PとSふたつ(S1,S2)の頻出組合せを表-6に示し、出現数が10以上のものを分析対象とし、ゴシック体で示した。

表-5 PとS(単独)の頻出組合せ(出現数10以上)

P	S	出現数
なし	風	27
なし	雨	21
なし	空	18
街・都会	なし	15
なし	星	13
なし	太陽	11
街・都会	風	11
海	波	11
なし	夕日	10

※分析対象をゴシック体で表記

表-6 PとS(複合)の頻出組合せ(出現数5以上)

P	S1	S2	出現数
なし	風	雨	12
なし	風	空	8
なし	雨	空	6
街・都会	風	虹	5

※分析対象をゴシック体で表記

c)分析対象とするPとSの組合せ

以上の手順で抽出した、分析対象とするPとSの組合せ一覧を表-7に示した。なお、それぞれの組合せについて、感情要素Eやサウンドの特徴的な傾向を付記している。Eは当該組合せの曲数の7割以上、サウンドは4割以上に共通しているものを書き出している。

表-7 分析対象とするP,Sの組合せとその特徴

歌詞			サウンド		
P	S	E	調	テンポ	感情的性格
街・都会	なし	哀・好	長	速	愉快・嬉しい・興奮
街・都会	風	哀・好	(特徴的な傾向なし)		
海	波	好	長	速	愉快・嬉しい・興奮
なし	風 雨	哀・好・厭	長	中	威厳がある

(3)分析

a)P「街・都会」、S「なし」の組合せ

「街・都会の中で傷を負った相手を癒す」描写を持つ曲が15曲中5曲存在した。例としては、“この都会は戦場だから 男はみんな傷を負った戦士 どうぞ心の痛みをぬぐって 小さな子供の昔に帰って熱い胸に甘えて”(1982年「聖母たちのララバイ」岩崎宏美)“間違いだらけの街 何かが自分変えようとしてもおびえないで “君をそこから救い出すよ”(2007年「Keep the faith」嵐)などの表現が当てはまる。過半数に当てはまるような顕著な傾向ではないものの、傷つく「哀しみ」と傷ついた相手を守りたい「愛情」が、街や都会の描写とともに描かれる傾向がある。

また、“移りゆく街はまるで僕らを急かすように”(2003年「さくら(独唱)」森山直太朗)、“都会は

秒刻みのあわただしさ”(1982年「セーラー服と機関銃」薬師丸ひろ子)、“誰の目にもとまることないまま街角のポスターは色あせて消えていく”(1994年「恋しさとせつなさと心強さと」篠原涼子 with t.komuro)のように、慌ただしく変化していく街の描写を含む曲が5曲みられた。感情要素E=「哀」「好」を含まない「世界でいちばん熱い夏」(1989年、プリンセス・プリンセス)でも“たいくつなイルミネーション ざわめく都会のノイズ ステレオタイプの毎日”という表現があることから、「街・都会」は疲弊させるもの、傷付けるものというようなイメージがあるともいえる。

サウンドの傾向「長調・速い」の組み合わせは既往研究では「嬉しい」「興奮する」を表すとされていた。“たったひとりを感じる強さ のがしたくない街の中で”(1986年「My Revolution」渡辺美里)、“金のハンドルで街を飛びまわれ楽しむことにくぎづけ”(1989年「Diamonds」プリンセス・プリンセス)のように、嬉しさ・興奮と関連がある曲は2曲のみであり、「街・都会」と関連性の高い感情と言いつけるような明確な傾向はここでは導き出せなかった。

b)P「街・都会」、S「風」の組合せ

喫茶店のくもり硝子の向うの“風の街”とともに失恋の哀愁が描かれる「ルビーの指環」(1981年、寺尾聰)のような、失恋・恋の終わりの哀しみを描くものが11曲中3曲あった。また、“木枯らしのビル街”に出たことで変わってしまう恋人を描いた「木綿のハンカチーフ」(1976年、太田裕美)のように恋人とのすれ違いを描くものも3曲あり、これら二つの描かれ方を合わせると、過半数の曲で「街・都会—風」の組合せと「哀」「好」との結びつきが確認できる。

c)P「海」、S「波」の組合せ

恋心の描写を明確に含んだ曲が11曲中8曲みられた。その中で、“しのび逢うつらさ 夜が明けるつらさ”“波の瀬にゆれてにくい影が帰る”(1971年「西武門哀歌」加藤登紀子)や“波間に消えるまぶしい夏さ 引き際せてカッコつけるぜ”“愛を誓ったメモリーリング 曲に合わせて海に投げるよ”(1984年「涙のリクエスト」チェッカーズ)、のように、哀しみ、つらさなどを表現したものは2曲に過ぎなかった一方、“波乗りあざやか拍手をあびてキスの嵐”“うっとりさせるテクニック腹が立つほどよ”(1977年「渚のシンドバッド」ピンク・レディー)、“青い海 波打ち際に君と会いたい”(2010年「ポニーテールとシュシュ」AKB48)などのように、盛り上がる恋心を表現した曲は8曲あった。「海—波」の組合せは、感情要素E=「好」だけで

なく、長調・速いテンポで表される「喜び」や「興奮」とも関わりがあると考えられる。

d)P「なし」、S1「風」、S2「雨」の組合せ

“風に吹かれても雨に打たれても信じた愛に背を向けるな” (1988 年「乾杯」長渕剛)，“雨は止んだ 風は止んだ 見たことのない光が差すよ 今が時だ” (2010 年「Beginner」AKB48) というように雨と風をセットにして困難の象徴として表現した曲は 12 曲中 4 曲あった。その他の描かれ方としては，“夜風がそっと恋の終わりを告げる” (1992 年「涙のキッス」サザンオールスターズ)，“思い出はいつの日も雨” (2000 年「TSUNAMI」サザンオールスターズ) のような、失恋の哀しみを象徴した風や雨，“やわらかく君をつつむあの風になる” (1991 年「ラブ・ストーリーは突然に」小田和正)，“愛はきっと降り注ぐ雨のように” (2008 年「truth」嵐) のような愛情を象徴する風や雨があった。明確な傾向として判断はできないが、これらの表現から、「風」や「雨」という状況要素と「哀」「好」「厭」との関わりは読み取れる。サウンドの傾向「長調・中位の速さ」は既往研究では「威厳がある」感情的性格と結びつくとしていたが、ここからその関連はみられない。

4. 結論

現代日本の流行歌として「オリコン年間ランキング」の各年のシングルセールス部門上位曲を対象に歌詞に含まれる風景記述と感情記述を抽出し、それらの結びつきおよびそれらとサウンドの感情的性格の関わりについて分析を行った結果、次の傾向を指摘した。

- ・ 街や都会の描写は、傷つく「哀しみ」と傷ついた相手を守りたい「愛情」とともに描かれる傾向がある。
- ・ 街や都会が「風」と組合せて描かれる場合、「哀」「好」という感情との結びつきが確認できる。
- ・ 海と波の組合せの描写を含む曲には、大多数が恋心の描写を明確に含んだ曲であり、うち盛り上がる恋心を表現した曲が顕著に多く「好」という感情要素との結びつきが確認できる。
- ・ 「風」や「雨」という状況要素は、困難の象徴として表現されるなど、「哀」「好」「厭」との関わりが窺える。
- ・ これらの歌詞中の風景と感情の結びつきに対して、サウンドの特徴という観点から既往研究成果に基づいて考察を試みたが、海と波の組合せで描かれる風景を除いて、既往成果との一致を確認することはできなかった。

これらの分析結果より、現代日本における風景と感情の結びつきの「型」の一端を示した。

5. 今後の課題

本研究は、風景と感情の結びつきの「型」を求めて進めてきたわけであるが、3. (1) a) で示したように、対象とした流行歌の大半には風景描写が含まれていない。これが現代的な傾向であるのか、そもそも流行歌のような一時的な大衆性を獲得するメディアに特定の風景を描き入れることが不向きであるのかは、本研究では明らかになっていない。今後の課題としては、伝統的な俳句・和歌を対象とするような、時系列変化を見る研究や、地域の民謡などを対象にするような、ある特定の共同体に共有される風景と感情の結びつきを調べる研究により、より豊かな知見が得られるものと考えられる。

脚注

- ¹ 土木工学大系編集委員会編、中村良夫他著 (1977) 『土木工学大系 13 景観論』彰国社、pp. 2
- ² 篠原修編、斎藤潮他著 (1998) 『景観用語辞典』彰国社、pp. 12
- ³ 小川博司 (1988) 『音楽する社会』勁草書房、pp. 42-70
- ⁴ 尾野薫、星野裕司、山下雄史 (2011) 「『苦界浄土』における暮らしの心象風景」土木学会 景観・デザイン研究講演集、No. 7、pp. 126-135
- ⁵ 島兒伸次、仲間浩一、岡田昌彰 (1994) 「歌謡曲の情景描写からみた駅空間のイメージに関する基礎的研究」、都市計画論文集 (29)、pp. 589-594
- ⁶ 鈴木康子 (1998) 「松任谷由実の歌詞にみる『都市的なもの』の風景」お茶の水地理 Vol. 39、pp. 119-120
- ⁷ 毛利隆子、後藤春彦 (1994) 「歌にあらわれる『海』のイメージの変容—日本人の海の原風景観に関する基礎的研究—」、都市計画論文集 (29)、pp. 595-600
- ⁸ 見田宗介 (1967) 『近代日本の心情の歴史—流行歌の社会心理史』、講談社
- ⁹ 小野澤志保 (2013) 「J-POP における日本語の研究—現代流行歌の歌詞に見る特徴—」、国文 (119)、pp. 73-61
- ¹⁰ オリコン株式会社 HP
<<http://www.oricon.co.jp/rank/index2.html>> (2014 年 9 月 17 日閲覧)
- ¹¹ ランキングデータは『コンフィデンス年鑑』1970-1979 年版、『オリコン年鑑』1980-2009 年版、『ORICON エンタメ・マーケット白書』2009-2012 年版による。
- ¹² 歌詞検索サービス 歌ネット<<http://www.uta-net.com/>>を参照した
- ¹³ 中村明 (1993) 『感情表現辞典』、東京堂出版
- ¹⁴ G.C. Bruner II. (1990) Music, Mood and Marketing, *Journal of marketing*, Vol. 54, No. 4, pp. 94-104